

## ルーザの森の憧れの暮らし

東京学芸大学附属世田谷中学校

二年 美好 愛華

「ポロン ポロン ポロロン」

朝、私が学校へ行く時、そして夜、家に帰ってきた時、家のリビングのドアにかかっているドアリラが優しい音色を奏でます。このドアリラ、通称ドアハープは父の中学時代の美術の先生がお作りになった特別なものです。

数年前、私たち家族は山形県米沢市の森の中で暮らす父の恩師を訪ねる旅行をしました。その森、「ルーザの森」で私たちは先生の家の隣にある工房付きの山小屋「ルーザ・ヒュッテ」に泊まらせていただきました。

赤い屋根に緑に塗られた板壁、きつね色の窓付きドア、ドアの横にはガラスの窓、そしてそれらの上には屋根と同じ赤い色のひさしが付いていて、まるでおとぎ話の中から出てきたような小さな小屋です。小屋の中は全て無垢の木で、森で拾った様々な種類の種が瓶に入って綺麗に並んでいます。それに薪ストーブ、木の机など、全てのもが調和し、本当に心地良い空間でした。

驚いている私たちに先生は、この小屋は先生がほとんど一人で造ったものだということ、材料は、解体材や建築廃材で焼却の運命にあったものなど使命を終えたものたちだったということをお話してくださいました。つまり、一度役目を終えたものに、先生が新たに命を吹き込んだもの、それが「ルーザ・ヒュッテ」だったのです。

山小屋だけでなく、中にある全てのもの一つひとつにストーリーがあり、お気に入りの物たちに囲まれた生活に憧れました。

今、私は都会のマンションに住み、忙しい日々を送っています。でも、ドアリラの優しい音色を聴く度、ルーザ・ヒュッテのこと、ルーザの森で先生ご家族と焚火を囲んで楽しく食事をしたこと、そしてシンプルだけれども、とても快適で豊かな生活を思い出します。今はコロナ禍で先生に会いにルーザの森に行くことは叶いませんが、今日も我が家でドアリラが優しく私たちを癒してくれています。